

マエストロからの
メッセージ

卓抜な紀尾井シンフォニエッタ東京と再会し、素晴らしい紀尾井ホールで演奏できるのが非常に楽しみです。

今回演奏する作品は、すべて何かに対する称賛・祝賀の意味を持っています。ベートーヴェンの序曲は1000年以上も前にキリスト教国ハンガリーを形作った歴史上もっとも偉大な王を称賛する作品、チャイコフスキーの協奏曲は、ヴァイオリンのための最も美しい作品のひとつとして称賛されています。また、「宗教改革」交響曲は神聖ローマ帝国皇帝カール五世が宗派対立を終結させた「アウグスブルクの和議」300周年を祝って青年メンデルスゾーンが作曲したものです。

3年前に素晴らしい音楽体験を共有した紀尾井シンフォニエッタ東京のように、柔軟な発想を持った熱心な演奏団体と、これらの魅力あふれる作品で共演できる日が待ち遠しい限りです。

ガーボル・タカーチ=ナジ



タカーチ=ナジが導く
壮麗なメンデルスゾーン

紀尾井シンフォニエッタ東京の新シーズン最初の定期演奏会にして、当団のあらたな第一歩となる第101回目の定期演奏会は、2012年に当団に初登場しオーケストラと息の合った演奏を繰り広げた、ガーボル・タカーチ=ナジが再登場します。

マエストロは自らの名を冠した「タカーチ弦楽四重奏団」を長年率い、現在はジュネーヴ高等音楽院の名教師として、多くの優れた生徒を育てています。名カルテット時代を通じて培った、実り豊かな演奏をお楽しみいただけます。

プログラム最初のベートーヴェン「シユテファン王」序曲は、名作「エグモント」と同様、劇音楽として作られました。軽快でありながら、内面は強い構築性を感じさせる曲調は、ベートーヴェン「らしさ」を感じます。この作品がブダペストの劇場から依頼を受け完成したこともあり、ハンガリー出身のマエストロの指揮に期待が高まります。

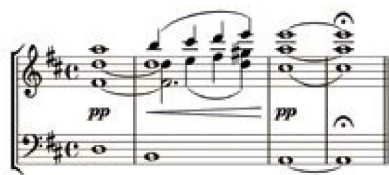
当団20年の歴史の中で初めて演奏されるチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲は、メランコリックなヴァイオリン・ソロの旋律と優雅なオーケストラ伴奏が印象的で、日本でも人気の高い作品です。名門バイエルン放送交響楽団、そして当団のコンサートマスターでもあるアントン・バラホフスキーを

ソリストに迎え、ロシア出身の彼が、母国の音楽の心髄を披露いたします。

チャイコフスキーと同じく、名ヴァイオリン協奏曲を残したメンデルスゾーン。彼は交響曲作家としても名作を生み出しましたが、今定期演奏会の締めくくりは、「スコットランド」(第3番)、「イタリア」(第4番)と並んで標題作品として有名な、交響曲第5番「宗教改革」を演奏します。自らもさまざまな宗教作品を演奏してきたメンデルスゾーンは、21歳の時に、マルティン・ルターの宗教改革300年目を機に、この作品を作曲しました。壮麗な調べから始まり「ドレステン・アーメン」と言われる音の進行(譜例)を効果的に織り交ぜ、また終楽章にはルターが作曲したと伝えられるコラールの旋律が使われるなど、作曲者の宗教に対する熱い思いが伝わる作品となっています。



アントン・バラホフスキー



譜例:「宗教改革」第1楽章序奏の終結部

紀尾井シンフォニエッタ東京
第101回定期演奏会

タカーチ=ナジが導く
壮麗なメンデルスゾーン

9.11 金 19:00

9.12 土 14:00